

## Japan Digest No.5

2007年8月3日

INPEA 日本国委員会  
会員各位殿

梅雨が明け、猛暑の日々が続いておりますが、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

世界 48 カ国にネットワークを持つ、INPEA（高齢者虐待防止国際ネットワーク）の日本国委員会事務局は、去る 6 月 15 日（金）に、第 2 回目の「世界で高齢者虐待を考える日」(The Second Annual World Elder Abuse Awareness Day : WEAAD)<sup>※</sup> のイベントを開きました。今年は、研究者、現場の介護職員や看護師、介護関連会社の社員、大学院生・大学生そして「シルバー新報」の取材の方を含む 26 名（+スイス WHO 本部からの国際電話による参加者 1 名）の、幅広い領域からの皆様にご参加いただき、小さいながらも成功裏に会が終了致しました。ご参加いただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。

本日は、遅くなりましたが、その第 2 回 WEAAD のイベントの様子をジャパン・ダイジェスト No.5 として当日の模様をお伝えさせていただきます。WEAAD は、INPEA が企画したイベントで、毎年、世界各国の INPEA 会員国が、INPEA が「世界で高齢者虐待について考える日」とした 6 月 15 日に、イベントを同時開催するというスケールの大きい企画です。日本は、日付変更線のため、今年も世界で最初に第 2 回 WEAAD のイベントを開催することになりました。

### ※) WEAAD の趣旨

INPEA が毎年 6 月 15 日を「世界で高齢者虐待を考える日」(WEAAD : World Elder Abuse Awareness Day) と定めた趣旨は、高齢者虐待が、「グローバルな社会問題」であるという認識を高めると同時に、効果的な対応の必要性を再確認し、この日を機会に、高齢者虐待の問題を予防する活動が、次の一年、さらに長期の目標に向けて推進するように、との願いから始めたものです。

### <2007年6月15日（金）第2回「世界で高齢者虐待を考える日」開催報告>



<淑徳大学池袋キャンパスにて>

INPEA 日本国委員会は、2007年6月15日（金）の午前10時より2時間、昨年と同じ会場である淑徳大学池袋キャンパスをお借りして、第2回「世界で高齢者虐待を考える日」（WEAAD）のイベントを開きました。

今年の来賓講演と致しましては、田中荘司先生（日本高齢者虐待防止学会：JAPEA 顧問（元理事長）、日本大学客員教授、NPO 法人日本高齢者虐待防止センター（JCPEA）理事長）、高崎絹子先生（JAPEA 理事長、放送大学教授）、志藤洋子・角田とよ子先生（ILC-Japan：国際長寿センター日本国事務局事務局長・介護支えあい相談室長）、そして、今年は、厚生労働省老健局計画課認知症・虐待防止対策推進室専門官の佐々木健先生という面々をお迎えできました。全くのボランティア精神でご講演いただきました。ご快諾いただきましたこと、深謝致しております。



司会は、INPEA アジア地域担当理事の多々良紀夫先生（淑徳大学大学院総合福祉研究科教授）が担当される予定でしたが、急遽スイスに赴かれ、WHO 本部のあるジュネーブで行われる WEAAD のイベント&シンポジウムに参加されたため、私、日本国委員会代表塚田が司会を務めさせていただきました。以下に、プログラムに沿って、会場の様子を簡単に紹介させていただきます。

### ※ 主催者挨拶

当日配布の封筒に入れておきました塚田の挨拶状を読む形で、主催者挨拶にかえさせていただきました。当日参加できなかった方数名からご丁寧なメールや電話をいただきましたので、その一部をご披露いたしました。また、環境新聞社シルバー新報様より吉田乃美氏が参加されていることも御紹介いたしました。シルバー新報様におかれましては、6月15日に先立って、第2回 WEAAD のイベント開催について誌上（5月22日および6月15日）で2回、また、日本高齢者虐待防止学会横浜大会のことも6月22日（金）号でご案内記事を出していただいております。この場を借りまして心よりお礼申し上げます

（シルバー新報の記事につきましては、添付資料をご覧ください）。

### ※ 発表&パネル・ディスカッション

#### （1）佐々木 健氏



← 佐々木先生は、新しく厚生労働省に設置された認知症対策推進室の紹介や、今後厚生労働省で実施される研究調査の内容についてご報告いただきました。また、後半の質疑・応答の場面では、質問に積極的にお答えいただく等、活発にご参加いただきました。 ↓



<左から、講師の佐々木氏、高崎氏、そして田中氏>

## (2) 高崎 絹子氏

高崎先生は、前年度に引き続きましてご講演をいただきました。「虐待防止の実現へ向けて」という題目で、わが国の高齢者虐待防止法への道のりや理事長を務められる日本高齢者虐待防止学会の取り組みについて、様々な画像のスライドをふんだんに入れて、楽しいご発表をしていただきました。



## (3) 田中 荘司氏



← 田中先生は、ご覧の通りの大変リラックスした感じで、時に面白く、日本の高齢者虐待が「発見」されてからの研究や民間活動の歴史、行政の取り組みの歴史年表を作成されて、ご講演してくださいました。

なお、田中先生は、昨年度、日本の厚生事業に大変功績のあった方に天皇より贈られる、瑞宝双光章を授与されました！おめでとうございます！

### <多々良先生からの国際電話>

田中先生のご講演途中に、突然、ジュネーブの WHO 本部で WEAAD のイベント及びシンポジウムに出席されていた多々良先生から国際電話が入りました。田中先生には、大変ご迷惑をおかけいたしました。

本ニュースレターの終りの方で、多々良 INPEA アジア地域理事からの WHO 本部でのイベントの様子を報告していただきましたのでご高覧下さい。



## (4) ILC-Japan の志藤氏・角田氏



← ILC-Japan の志藤氏には、前回に引き続き講演に来ていただきましたが、今回は、2名で、「介護支え合い相談室」の室長にもおいでいただき、ILC-Japan の長年の取組みの介護電話相談により蓄積されたデータから、最新の高齢者虐待の実態を浮き彫りにして、ご報告いただきました。

<ILC-Japan より：左から志藤氏、角田氏>

※ 4名のご講演の後の5分間休息の後、活発な質疑応答の時間となりました！



←東洋大学 角田氏



←日本大学大学院 OB 佐藤氏



←日本大学 山田氏



施設長 岡芹氏 →



東洋大学 安武氏→



←真剣に聞き入る参加者の皆様の様子

### ※ 閉会の言葉

第2回WEAADのイベントは、12時予定の閉会時刻を10分ほど過ぎて終わりました。今回は、自己紹介の時間を特にとらなかった代わりに、全体集合写真を撮りました。12時を過ぎたため、数名の方は、会場を去られた後でしたが、参加者の皆様の写真を撮らせていただくことができました。よい写真が出来上がりました。皆様、ありがとうございました。

2007年の第2回「世界で高齢者虐待について考える日」(WEAAD: World Elder Abuse Awareness Day)は、前年の第1回WEAADの参加者24名を上回る26名(+国際電話参加者1名)の計27名の参加者を得て、無事、終えることができました。

来年の6月15日は日曜日です！多くの人にお集まりいただき(100名の参加者が目標です!!)、昼食も企画しながら、皆様と交流ができる会にできたらと思っております！

今から、皆様のスケジュール帳に、6月15日(日)第3回WEAADのイベントを予定していただければ幸いです。

ボランティアで受付をしていただきました！ →  
本当にありがとうございました！



## <特別寄稿>

### 多々良紀夫 INPEA アジア地域代表 WHO 訪問報告

#### 「WHO 本部を訪問して－報告」

INPEA アジア地域担当理事  
淑徳大学教授 多々良紀夫

#### <はじめに>

「第2回世界で高齢者虐待を考える日」を記念して、2007年6月14日と15日の両日に、スイスのジュネーブにあるWHO（世界保健機関）本部の国際会議場において2つのイベントが開催された。

「2007年度国際ロザリー・ウルフ記念賞」の授賞式は、これらのイベントの最後に行われることになっていた。この賞をいただくことになっていた私は、1つ目のイベントで発表を予定していたので、会議場にはイベントの最初から来ていた。

私は、隣の国のドイツやフランスへは、度々来たことがあるが、スイスには訪問したことがなかった。しかし、30年来のスイス人の友人がいることを含めて、私は、スイスには、強い関心があった。スイスは、非常に面白い不思議な国である、と私はいつも思っていた。まず、スイスが古くから永世中立国であることは、多くの人達が知っているであろう。しかし、この国には、軍隊があり、徴兵制度と共に、国民皆兵を敷いていて、各家庭には、自動小銃などの武器が支給されていることは、その昔、日本の中学校や高等学校では教えてくれなかった。また、スイスには、WHOを始めとして、幾つかの国連機関の本部や支部が存在するが、スイスは国家として最近まで（正確には、2002年9月まで）、国連に加盟していなかったということも、ほとんどのヨーロッパの国（現在まで合計27カ国）が加わっている欧州連合（EU）に、スイスは加盟していないのである。これらの事項は、全て興味深いことである、と私は思っている。まだ、幾つかあるが、スイスのことは少し脇において、私がWHO本部を訪問した目的である先に述べた2つのイベントに参加したことに関する報告をさせていただく。



<WHO 本部の前で、INPEA 事務局長 Somers 氏（左）と会長 Daichman 氏（右）と>

### <1つ目のイベント>

INPEA と国連 NGO 高齢化委員会ジュネーブ支部 (UN NGO Committee on Aging, Geneva) が、6月14日(木)及び15日(金)に共催した「高齢者虐待グローバル・シンポジウム」(A Global Symposium on Elder Abuse) が1つ目のイベントであった。合計10カ国から参加した様々な専門領域の約20名のシンポジストが、それぞれの立場から発表を行った。私は、「Japan, the Nation That Has Enacted Three Stand-Alone Family Violence Prevention Laws in Six Years」のテーマで、6月15日の筆頭発表者として、高齢者虐待防止法を含む日本の家族暴力防止三法の意義と役割について短い講演を行った。私の英語の講演は、同時通訳によって直ちにフランス語に訳された。因みに、フランス語で発表や発言をしたシンポジストが数人いたが、全て英語に訳されていた。

### <2つ目のイベント>

2つ目のイベントは、6月15日の午後から行われた WHO と INPEA の共催による「第2回世界で高齢者虐待を考える日」の特別講演であった。Stephen Lewis (Scholar-in-Residence, McMaster University, Ontario, Canada) と Baroness Sally Greengross (Notting Hill House of Lords, UK) が基調講演者であった。日本の老年学領域の研究者には、あまり知られていないかもしれないが、この2人は、WHO を含む国連関係者の間では、著名である。まず、Lewis 氏は、1980年代初頭からカナダの国連大使やユニセフの副事務局長などを務めた国際人で、特にアフリカの HIV/AIDS の問題に詳しいことでよく知られている。特別講演では、アフリカにおける HIV/AIDS の流行と女性の虐待の関係性について熱烈的なアピールを展開した。次に、男爵夫人 Greengross 氏は、イギリスの上院議員で、保健福祉の問題に長い間取り組んできた活動家で、WHO のコンサルタントとしても知られている。最近、国際長寿センター (International Longevity Center) のイギリス事務局長としても活躍している。この講演においては、イギリスとヨーロッパ諸国の高齢者虐待への対応状況について報告した。

特別講演の司会・進行役は、WHO の高齢化問題担当部長 Dr. Alexandre Kalache と INPEA 会長 Dr. Lia Daichman が共同で努めた。この2人は、30年近く前にお互いが、ヨーロッパで研修医であった頃からの知り合いで、このような司会・進行役の経験は、幾度もあるといていた。確かに2人の連携は見事であった。因みにこの2人は、これまでに4人受賞したロザリー・ウルフ国際記念賞の受賞者である。

### <ロザリー・ウルフ国際記念賞の授賞式について (写真下参照) >

6月15日の特別講演の最後の部分に組まれていたのが、「2007年度ロザリー・ウルフ国際記念賞」の授賞式であった。しかし、受賞者の私は、いつ、どのようにしてこの授賞式が開始されて、展開されるのか知らされていなかった。INPEA のジュネーブ駐在 WHO 担当コンサルタントから、私が日本を発する前に聞いていたことは、

「INPEA 事務局長 Somers 氏が、多々良を紹介する。受賞に際しては、スピーチはいらない。Thank you を2~3回繰り返すだけでよい」のみであった。授賞式の気配が一向にしないことが心配になった私は、周りを見渡して、Somers 氏が何処にいるのかを確認しようとしたが、彼女は見当たらなかった。



<WHO の国際会議場での授与式の様子>

国際会議場は、WHO 本部ビルの地階 1 階にある。部屋の中央部分が吹き抜けになっていて、天井が 4 階あたりにあるので、その構造は、とてつもなく広い空間感覚をそこに居る人達に与えていた。丁度、吹き抜けの下の床部分には、60～70 人が楽に座ることができる大きな円形テーブルが固定されていて、それぞれの席には、マイクや同時通訳者から受信するための受信機などが配備されていた。円の内側の中空部分には、事務職員の机や少数の器具が置かれていた。午前中の私の発表の際には、ミシガン大学の著名な心理学者が、パワーポイントの操作をしてくれた。円形テーブルの外側は、恐らく 700 人から 800 人は楽に収容できるであろうと思われる傍聴席が中心を囲むように並んでいた。先ほどから述べている特別講演に、何人出席することになっているか知る由もないが、見渡したところ、6 月 15 日午後 4 時頃時点で、INPEA と WHO の関係者を含めて多少多めに見積もっても 100 名はいなかったといえる。

さて、ロザリー・ウルフ国際記念賞の授賞式であるが、突然 Somers 氏が何処からともなく姿を現して、私の近くにやって来た。彼女は両手に資料か何かを抱えていて、円形テーブルの内側の私の正面に来た。そして、マイクのスイッチを入れて、ロザリー・ウルフ国際記念賞の授賞式が始まることを告げた。私は直ちに立ち上がり、それを確認すると Somers 氏は、私の紹介を始めた。書き遅れたが、Somers 氏は、最近まで米国ニューヨーク州社会福祉省副長官（高齢者問題担当）を努めていた消費者保護を専門とする弁護士である。ここ数年間は、INPEA の事務局長をしていただいている。Somers 氏による私の紹介がしばらく続いたが、私は全く上の空で、「Thank you を繰り返すだけでは芸がないではないか、では、何を言うべきであろうか・・・」と考えていた。Somers 氏から、特別にオーダーメイドされた Plague(記念賞を意味する飾り板：冒頭の写真参照)が、私に渡されると、会場から拍手が沸き立った。

「有難うございます。このような名誉な賞をいただけることができ私は本当に幸せです。これまで 30 年以上、アメリカと日本で一緒に高齢者虐待を含む社会福祉の研究をしてきた人達、様々なことを教えていただいた人達に深く感謝いたします。私は、ロザリー・ウルフ氏とは、数々の仕事を一緒にしました。彼女が、アメリカの高齢者虐待防止委員会 (NCPEA) を立ち上げた時には、協力しました。彼女が、専門誌『高齢者虐待及びネグレクトジャーナル』(JEAN) を出版した時にも、参加しました。そして、彼女が、INPEA の話を持ちかけた時にも、オーストラリアまで出かけて行って設立に加わりました。1988 年に私が、米国高齢者虐待問題研究所 (NCEA) の所長に就任した後は、いろいろな形で協力をしていただきました。そして、我々の領域は、ロザリー・ウルフという偉大な指導者を失いました。しかし、我々は、彼女が残した業績や教訓から学びながら、この領域の研究や実践を続けます。皆様ありがとうございました。」この発言をもって授賞式は終了し、Dr.Kalache の「第 2 回世界で高齢者虐待を考える日」のイベントの総括に入った。

以上、報告終わり。



<←ジュネーブ市街>

※ おわりに

日本は、世界で高齢者虐待防止法を施行した3つ目の国です。その法律は、在宅、施設の両方を含むことで画期的であるばかりではなく、加えて、被虐待者および虐待者の養護も含めた素晴らしい法律であると各国から評価されております。このような高齢者虐待の【先進国日本】となった現在、研究者それから実践者の皆様と手を取り合って、日本の高齢者虐待への取り組みを世界へ発信していけたらと願っております。皆さん、共に頑張りましょう！！

末筆になりましたが、国連助言機関である INPEA（国際高齢者虐待防止ネットワーク：URLは <http://www.inpea.net/>）の入会は無料です。皆様の同僚・ご友人をご紹介くださいますようお願いいたします！ご入会者には、世界からの配信メール（英語です：希望者に転送いたします）や日本版ニュースレター（Japan Digest）が郵送されます。

現在の日本国委員会の会員数は53名、世界 INPEA の会員数は概算で2000名（最大会員数600名を誇るの南アフリカ共和国）だそうです。日本国委員会を任されて以来、まさに草の根の活動ですが、小さな活動の輪を少しずつ広げて参りたいと思っております。

今年6月1日には、遅ればせながら INPEA 日本国委員会のホームページも開設いたしました。来年の WEAAD に向けて、INPEA 国際ネットワークの拡充に、皆様のご支援をどうぞよろしく御願ひ申し上げます！！

益々、暑くなりますが、皆様、どうかくれぐれも御自愛下さいませように。皆様の益々のご健勝とご多幸を心より祈念いたしております。

草々

<第2回 WEAAD イベント後の参加者の全体集合写真>



★ 6月1日に INPEA 日本国委員会のホームページを開設いたしました。皆様のご訪問をお待ちしております！また、ご友人へのご案内もあわせてよろしく御願ひ申し上げます！！

INPEA 日本国委員会事務局代表 塚田典子  
日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科  
電子メール： [ntsukada@gsb.nihon-u.ac.jp](mailto:ntsukada@gsb.nihon-u.ac.jp)  
Tel： 03-5275-9430（研究室）  
Fax： 03-5275-8386（講師室）  
URL： <http://www.inpea.jp>